

日本か？ 世界か？

生徒の要望、社会の要請に常に応え続ける

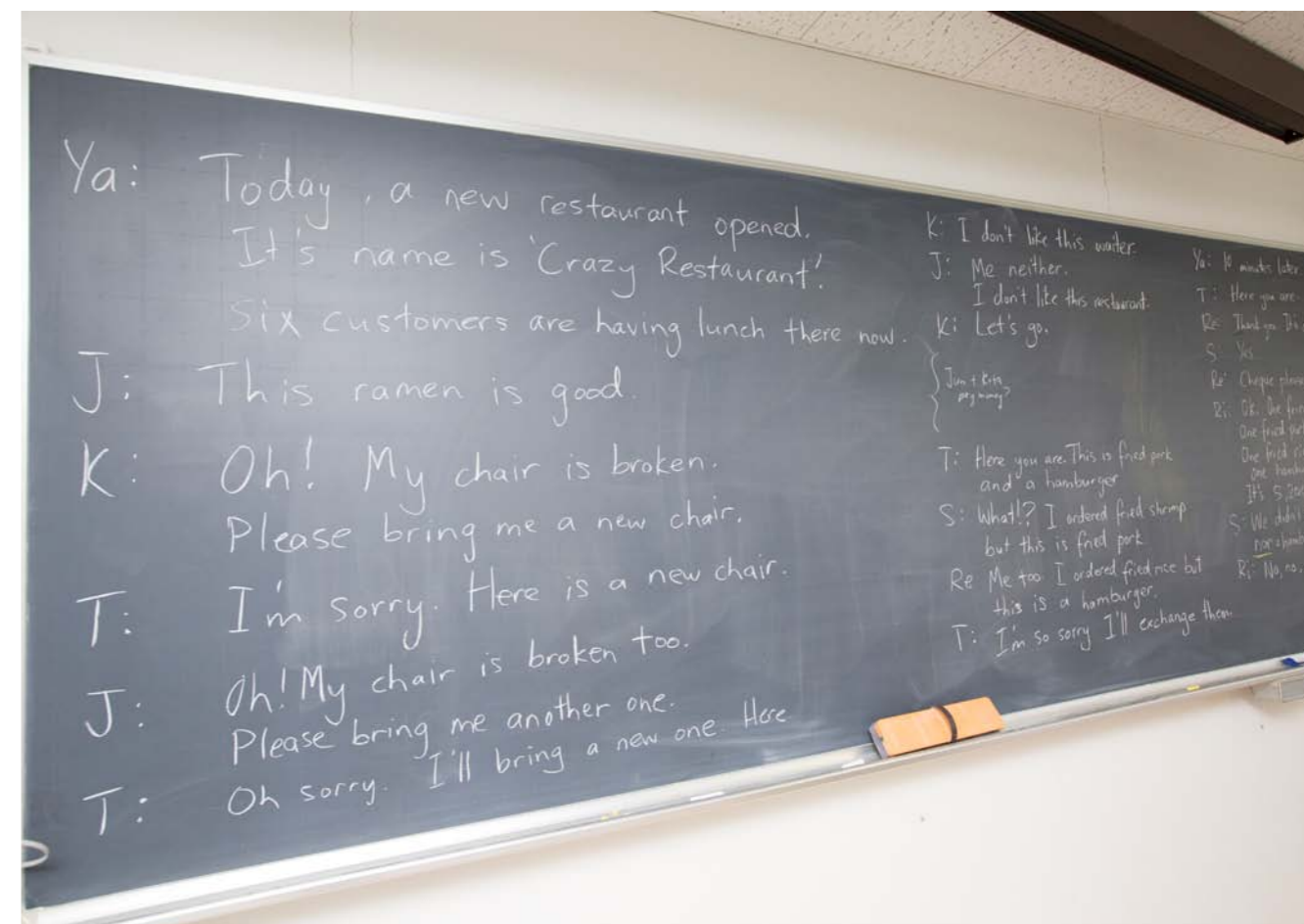
「社会に有為な人材を輩出する」。

1891年の創立以来、長きにわたりこの建学の精神を時代に即した形で具現化してきた海城学園。

1992年には、教育理念として「新しい紳士」の育成を標榜し、「フェアな精神」「思いやりの心」

「民主主義を守る意思」「明確に意思を伝える能力」の育成に注力してきた。

さらにグローバル教育を推進するために始めた新たな取り組みとは――。



「日本の中等教育、高等教育は今のままでいいの。社会のグローバル化が進む中、このままで我々の社会は大丈夫なのか」
この大きな命題の解明を模索してきたという中田大成教師。
「新しい紳士の育成」を掲げた1992年の改革元年から20数年を経て、現在改革は第3ステージに入りました」
2011年度帰国生入試開始。
2012年度グローバル教育部の発足。
グローバル化社会、かつ価値観が多様化した現代社会において、社会に有為な人材を育てると強い決意の表れである。
「社会に有為な人材の資質として必要なことは、学力と人間力がバランスよく兼ね備わっていること」
人間力の育成として、中1、2年次にはプロジェクトアドベンチャー(PA)を、中2、3年次にはドラマエデュケーション(DE)を取り入れている。PAとはさまざまなアクティビティを通じて人間関係を構築していくプログラム。一つひとつのアクティビティ終了後にすぐに振り返りが行われ、良かった点を認め合い、さらに良くするための話し合いが行われる。その過程において、お互いの存在を認め、信頼関係を築いていく。また、アクティビティにチャレンジするか否かは自分の意思によって決定するため、自らの意志で行動することを自覚する。
一方、DEとは、演劇の手法を取り入れた学習で、海城学園では外部より講師を招いて、最終的に劇を創作、上演している。この過程では、お互いの意見をすり合わせ



PAでは協力して課題を克服する



PAでは終了後に振り返りを実施



グローバル社会で リーダーとなるために必要な素養とは

る、価値観の異なる他者と協働する術を学ぶことで、コミュニケーション能力が向上する。これらの取り組みは、多様な価値観を理解し、新しい価値を創出できる人間を育てることにつながる。

学力面では、社会科学総合学習でのレポート学習・中3年次の卒業論文作成を通して課題設定・解決型の学力を養い、理科での実験・観察・巡検を通じて、原体験から五感を駆使して思考を紡ぎ出すことを学んでいる。

8月には、中2の希望者によるイングリッシュキャンプを初めて実施した。グローバル教育部の発足を受けての試みである。

このキャンプでは、何よりも英語に親しむこと、楽しむことが第一の目標とされた。1グループ10名に1名のネイティブ講師がつき、2泊3日にわたる英語漬け。

「グループ分けを見て、知らない人ばかりで戸惑った」と生徒が言うように、知らない者同士が同グループになるようグループ編成がなされ、行きのバス移動の車内は、さまざまな緊張のため「静まりかえっていましたよ」と先生たちが笑っていた。

到着後は、英語で数学や理科の授業を受けた。クリケットやラグビーなどのスポーツやクイズを楽しんだり。「英語もだんだん聞き取れるようになってきた」という生徒たちが盛り上がりつつあったのが、スキット(寸劇)の創作、上演。準備期間はたった5時間という中で、一つのものを作り上げる。「みんながクリエイティブだった。いろいろな案がみんなから出てきた」と楽しみながら発表会ギリギリまで作りこんでいた。

そして、上演。DEの授業の成果もさることながら、本当に中2の生徒かと思うほどの完成度の高さに、彼らのポテンシャルの高さ、そしてそれを引き出す取り組みに圧倒された。


このキャンプには「外国に興味がある」「将来、留学したい」「ネイティブの先生と交流したい」と学年の3分の1にあたる生徒が参加した。

2月には全校生徒を対象に「海外進学講演会」を実施し、中3以下を中心に保護者も含めて200名強が参加。関心の高さがうかがえた。来年度の高1からは海外大学進学のための指導を開始する。

そして、グローバル教育部の大きなミッションとなるのがリベラルアーツの理論・実践研究だ。

「こそ」というところでぶれない軸(＝大きな価値観)を持つことがグローバル社会で活躍するリーダーには不可欠な資質。そのために、人間の一般性に関わる知見を多く含むトリベラルアーツを学ぶことは重要(中田教頭)と、数学科の教員がリレー形式で一つのテーマの下に講義を行ったり、英語と理科の教員による融合講座を行ったりとさまざまな取り組みを実践している。

「第3ステージの進展として、来年度はさらに新たな取り組みにチャレンジします」
中田教頭の言葉に海城学園の今後、いや日本の将来が楽しみになった。

	Keio
	Junior and Senior High School
Tokyo	

海城中学校・高等学校



クリケットを初体験



DE発表会。修学旅行を振り返った



DEの授業。創作過程で意見を出し合う